

(意見書案第 11 号)

中標津町への（仮称）北海道立林業大学校設置に関する意見書

北海道は、豊富な森林資源を背景に、造林面積や素材生産量などは全国一の規模を有している一方で、伐採、植林などの林業生産活動を担う林業労働者の高齢化等、森林づくりを担う人材の育成・確保が喫緊の課題となっている。

このような状況の中、林業・木材産業への就業前に、現場の作業及び管理に必要な知識や技能・技術を習得した人材を育成することにより、企業経営を支えるとともに、林業生産活動などを通じた地域づくりに貢献し、北海道の林業及び木材産業の健全な発展に資することを目的に、北海道が平成 32 年度の開校を目指し検討している（仮称）北海道立林業大学校の設置は、極めて重要かつ有効な施策であり、大きな期待を寄せているところである。

中標津町を含む根室・釧路管内には、豊富なカラマツ、トドマツなどの人工林など約 56 万ヘクタールの森林が広がっており、森林組合を含む林業事業体や、製材工場をはじめとした様々な木材関連事業所が、地域の林業・木材産業を支えている。

また、当管内は、緩傾斜地に広がる北海道遺産の「格子状防風林」をはじめとした防風林、河川や湿原の周辺の河畔林、海岸沿いの魚つき保安林など、地域の基幹産業である酪農や漁業、住民生活を保全する貴重な森林として整備されており、これらの森林資源の特徴を生かした、多様で健全な森林の施業実習が可能な地域である。

さらには、世界自然遺産「知床」や、「阿寒摩周国立公園」、「知床国立公園」、「釧路湿原国立公園」といった 3 つの国立公園を抱えており、シマフクロウ、オジロワシ、タンチョウ、イトウなどの希少な野生生物が生息・生育する豊かな自然環境と景観の保全等、森林のもつ多面的な役割を学び、実感できる貴重な地域でもある。

これらのことから、基幹産業である酪農と漁業、森林・林業が共存共栄し、発展してきた根室・釧路管内は北海道の縮図と言っても過言ではなく、この地域で林業を学ぶことにより、全道の各地域において、林業生産活動などを通じた地域づくりに貢献できる人材を育成することができ、地域林業の担い手不足解消につながるものと考えられる。

よって、道においては、（仮称）北海道立林業大学校を中標津町に設置することを強く要望する。

以上、地方自治法第 99 条の規定により意見書を提出する。

平成 30 年 6 月 22 日

釧 路 市 議 会

北海道知事 宛